

津ライスニュース 平成28年産(普通期栽培)

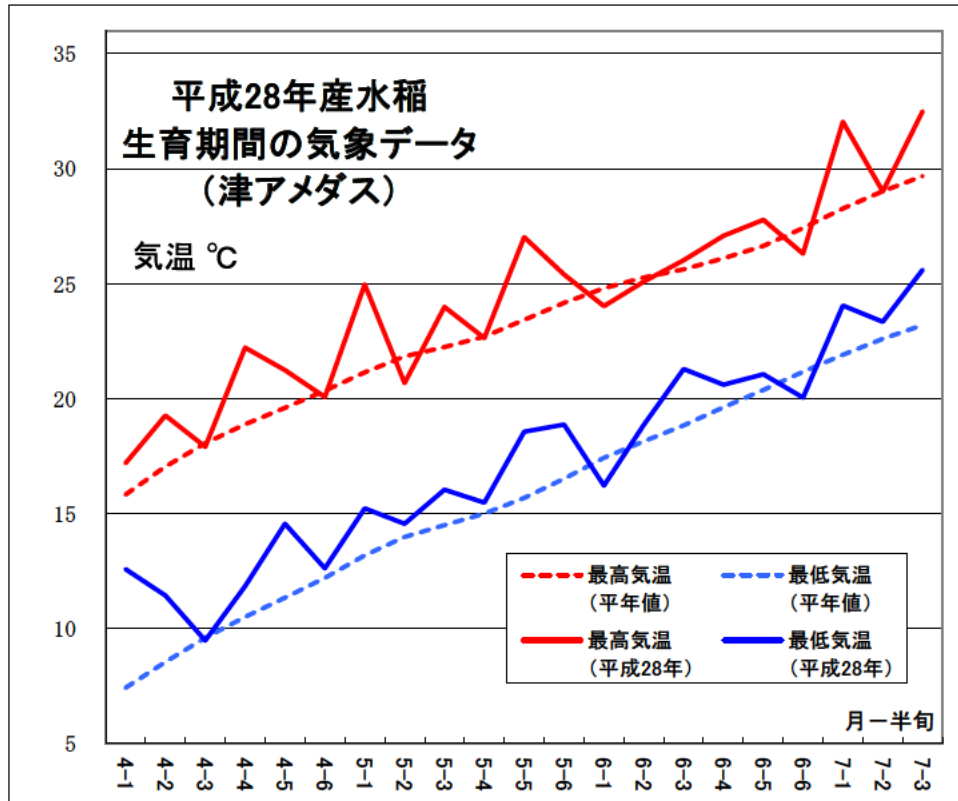
平成28年7月21日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

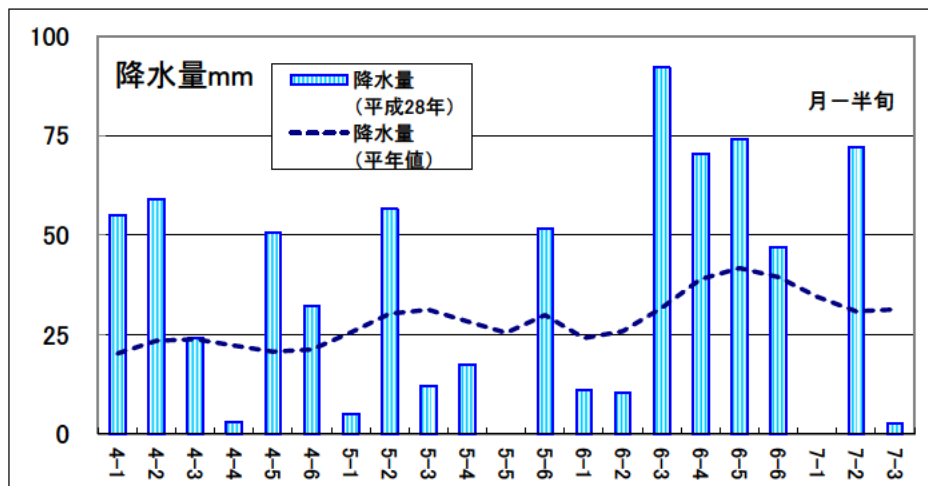
<気温>

4月以降、気温は高めに経過しましたが、6月は平年並みとなりました。7月以降は高温傾向に戻っています。



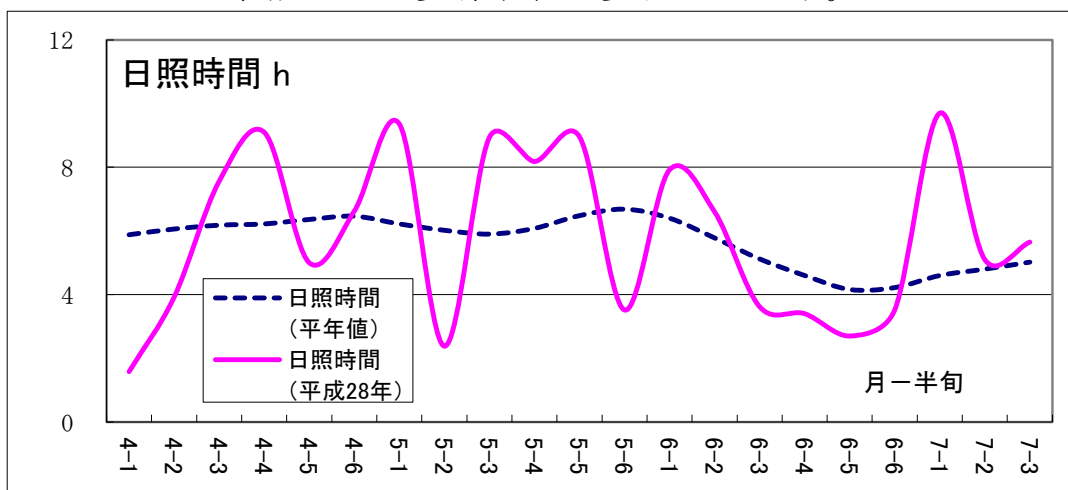
<降水量>

4月と6月の降水量は平年より多くなっています。7月に入ってから、1度に降る量は多かったものの、降水量は平年並みとなっています。



<日照時間>

4月と6月は雨の日が多かった影響で、日照時間は平年より少なくなっています。7月に入ってから、晴天の日が多く、平年より多くなっています。



生育の概況

本年は4月以降、雨の日が多かったことから、用水は確保されていて、代かき作業等は順調でした。4月以降、高温傾向および多雨傾向の影響により、苗いもち病の発生が散見されました。

津管内の田植え作業は、概ね5月下旬から6月中旬にかけて、普通期栽培の田植作業が順調に行われました。

本田での生育状況は、例年見られるような低温・強風による植え痛みがほとんど無く、初期生育も概ね順調です。7月に入り、晴天が続いたため、中干し作業も順調に行われています。

津管内の生育基準田でも、生育は順調で、草丈、茎数、葉齢の進展ともに平年並みとなっています。

○水稲生育基準田の調査結果

【平成28年7月14日現在】

品種	調査地点	移植日	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色 (SPAD)
				(本/m ²)	(本/株)		
コシヒカリ	一志町高野	6月14日	58.8	304	19	7.8	36.4

今後の栽培管理

<穂肥>

穂肥施用が早すぎると、下位節間が伸びやすくなるため倒伏を助長します。このため、コシヒカリの1回目の穂肥は出穂15日前頃、2回目の穂肥はその5～10日後に施用します。出穂前日数は葉耳間長(止葉の抽出程度)でも確認できます。

コシヒカリでは、草丈 70cm、葉色が SPAD34(葉色板で4.0)を越えた場合には倒伏が懸念されますので、穂肥をやめるか、時期を遅らせて減量して施用します。

コシヒカリ以外の品種では草丈は同じく 70cm、葉色は SPAD37(葉色板で4.5)がその判断の目安となります。

出穂間近の穂肥施用は玄米タンパク含量を高め食味を低下させてしまいますので、注意して行ってください。

○穂肥の時期

	コシヒカリ	コシヒカリ以外の品種
第1回穂肥	出穂18～15日前(幼穂長1.0～1.5cm)	出穂20日前(幼穂長0.3～0.5cm)
第2回穂肥	第1回穂肥の5～10日後	第1回穂肥の5～10日後

○穂肥の量

	コシヒカリ	コシヒカリ以外の品種
葉色	3.5～4.0	4.0～4.5
第1回穂肥	チツソ成分 2.0～2.5kg/10a	チツソ成分 2.5～3.0kg/10a
第2回穂肥	チツソ成分 1.5～2.0kg/10a	チツソ成分 1.5～2.0kg/10a

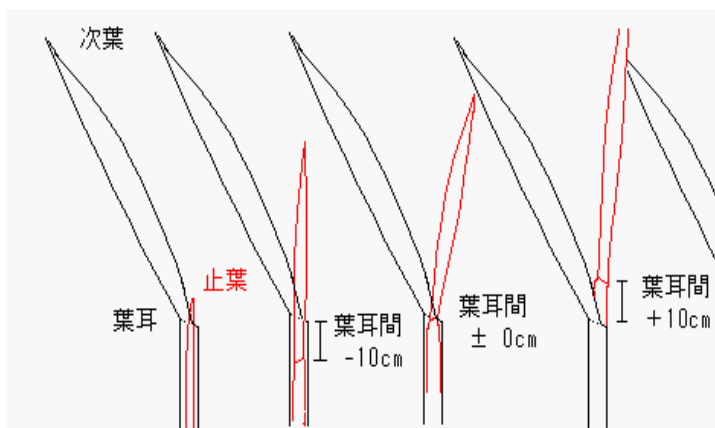
☆葉耳間長(止葉の抽出程度)と出穂前日数の関係

出穂前 18 日 → -15cm

出穂前 15 日 → -10cm

出穂前 10 日 → ± 0cm
(二回目の穂肥の適期)

出穂前 5 日 → +10cm



○水稻生育予測

【平成28年7月20日現在】

品種	移植日	出穂期 (平年との差)	成熟期 (平年との差)
コシヒカリ	5月15日	7月29日 (1.2日早い)	8月31日 (2.2日早い)
	5月30日	8月10日 (0.8日早い)	9月12日 (1.2日早い)
	6月15日	8月22日 (0.6日早い)	9月30日 -
みえのゆめ	5月15日	8月3日 (1.0日早い)	9月7日 (1.0日早い)
	5月30日	8月20日 (1.7日遅い)	9月23日 (2.0日遅い)
	6月15日	9月19日 (1.0日遅い)	10月22日 (0.9日遅い)

※三重県農業研究所作成の生育予測システムVer.9.2による予測です。

気象庁アメダス津観測地点データ(直近10カ年の平均気温)を使用しています。

<病害虫対策>

○いもち病

6月中旬以降、県内の広い範囲でいもち病の感染好適条件が定期的に現れています。今後のいもち病の発生は「やや多～多」との発生予察情報もでており、引き続き注意が必要な状況です。

ほ場を見回って、発生を確認した場合は早急に防除して、いもち病の進展、拡大を防ぎましょう。早期発見、早期防除が肝心です。

○斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類は、稲の穂を吸汁し、不稔や斑点米発生の原因となります。

今後の斑点米カメムシ類の発生量は、「やや多～多」との発生予察情報が出ており、ほ場および周辺での発生に十分注意が必要です。

斑点米カメムシ類は、稲が出穂するまでの間はイネ科雑草の汁を吸っています。カメムシ類の居場所となりやすい畦畔雑草は、出穂10日前までに除草しておきましょう。(出穂後の草刈りは、水田へカメムシ類を追い込むことになるため避けましょう)

薬剤防除は、穂揃い期に実施しましょう。広域での一斉防除が効果的です。